

スチール缶リサイクル 年次レポート 2026



目次

第1章

- 1. スチール缶と生産缶数 ————— 1
- 2. スチール缶のリサイクルルート ————— 2
- 3. スチール缶のリサイクル率 ————— 3

第2章

- 1. スチール缶スクラップの購入量
 コラム. スチール缶のリデュースについて ——— 4
 鉄スクラップ検収統一規格 ————— 5
- 2. 鉄スクラップの再利用 ————— 6
- 3. 鉄スクラップの価格 ————— 7

レポート1

- 国内鉄スクラップ市況、内外に複数の強材料
 ～ H2・5万円割れも底堅さ残る相場展開～ ——— 8

第3章

- スチール缶リサイクルの実態
 ～自治体アンケートより～ ————— 9

第4章

- まち美化対策の実態
 ～自治体アンケートより～ ————— 16

レポート2

- まち美化対策ヒアリング報告
 ～事例紹介～ ————— 19

資料編

- 1. スチール缶リサイクル率の算出方法 ————— 21
- 2. スチール缶リサイクル協会の活動報告 ————— 22
- 3. 製鉄工場(電炉・高炉・鋳物)・ペレット工場の分布 ——— 24

協会挨拶

平素よりスチール缶リサイクル協会の活動に、ご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。当協会は、スチール缶の再資源化の推進、スチール缶の散乱防止と地域美化の推進、そしてその普及啓発に取り組んでおり、2025年のスチール缶リサイクル率は93.4%になりました。これも消費者の分別排出から始まって、関係する皆さまのご尽力のおかげと感謝いたします。さて、協会では今年の6月に新たに飲料メーカー3社が会員に加わり、今まで以上にスチール缶の容器特性や素材の鉄がリサイクルするのに優れていると伝えていきます。引き続きご理解、ご協力をお願い申し上げます。この「スチール缶リサイクル年次レポート」はスチール缶の自治体の資源化の状況やスクラップの受け皿メーカー、スクラップ市場の動向、協会の取り組みなどをとりまとめています。皆様の再資源化活動の一助になれば幸いです。



第1章

1. スチール缶と生産缶数

- スチール缶は、缶ジュースや缶コーヒーなどの飲料缶のほか、みかんや魚の缶詰などの食料缶、のり・お茶・クッキーなどの一般缶、食糧用18リットル缶（一斗缶）をさします。
- 飲料缶と食料缶をあわせた生産量は、2025年で137千トンであり、スチール缶の生産量の約67%を占めています。
- 2025年に作られた飲料用スチール缶は約37億缶、食料用スチール缶は約5億缶、合計では約42億缶でした。



飲料缶・食料缶あわせて 137 千トン



一般缶 48 千トン



18 リットル缶（食糧用） 20 千トン

トン数は 2025 年経済産業省統計データおよび全国 18 リットル缶工業組合連合会データより

飲料缶および食料缶生産缶数 （推定数：スチール缶リサイクル協会調べ）

〔単位：百万缶〕

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
飲料缶	6,814	6,433	5,740	5,277	4,627	4,442	4,087	3,998	3,650	3,666
食料缶	815	790	786	772	766	736	715	639	579	548
合計	7,629	7,223	6,526	6,049	5,393	5,178	4,802	4,637	4,229	4,214

スチール缶の表示マーク

飲料缶は資源有効利用促進法の規定に基づいて材質を示すマークが定められています。

また、一般缶（のり・お茶・クッキーなどの缶）については全日本一般缶工業団体連合会が、18リットル缶については全国18リットル缶工業組合連合会が、消費者が分別排出する時に「スチール缶」であることがわかるようにマークを制定・管理しています。



（飲料缶マーク）



（一般缶マーク）



（18リットル缶マーク）

スチール缶の主成分

飲料缶用鋼板は耐食性、加工性、強度等に優れた高級鋼材です。

スチール缶スクラップは国内の製鉄所で溶解され、自動車・レール・家電・建材・スチール缶など、さまざまな鉄製品にリサイクルされています。

鋼材 ()は規格記号	炭素含有量 (%)	主要合金成分 (%)
飲料缶用鋼板 (SPTE T-4 CA)	鉄 99.9 + 炭素 0.02 ~ 0.06	アルミ 0.005 マンガン 0.03
自動車用鋼板 (SPCE)	鉄 99.99 + 炭素 0.005 ~ 0.01	チタン 0.0001
建材用鋼板 (SPCC)	鉄 99.8 + 炭素 0.1	マンガン 0.5 以下
線材 (SWRM)	鉄 98 + 炭素 0.1 ~ 0.4	マンガン 0.03 ~ 1.5
H 形鋼 (SG415H)	鉄 98 + 炭素 0.1 ~ 0.4	マンガン 0.03 ~ 1.5 クロム 0.85 ~ 1.25

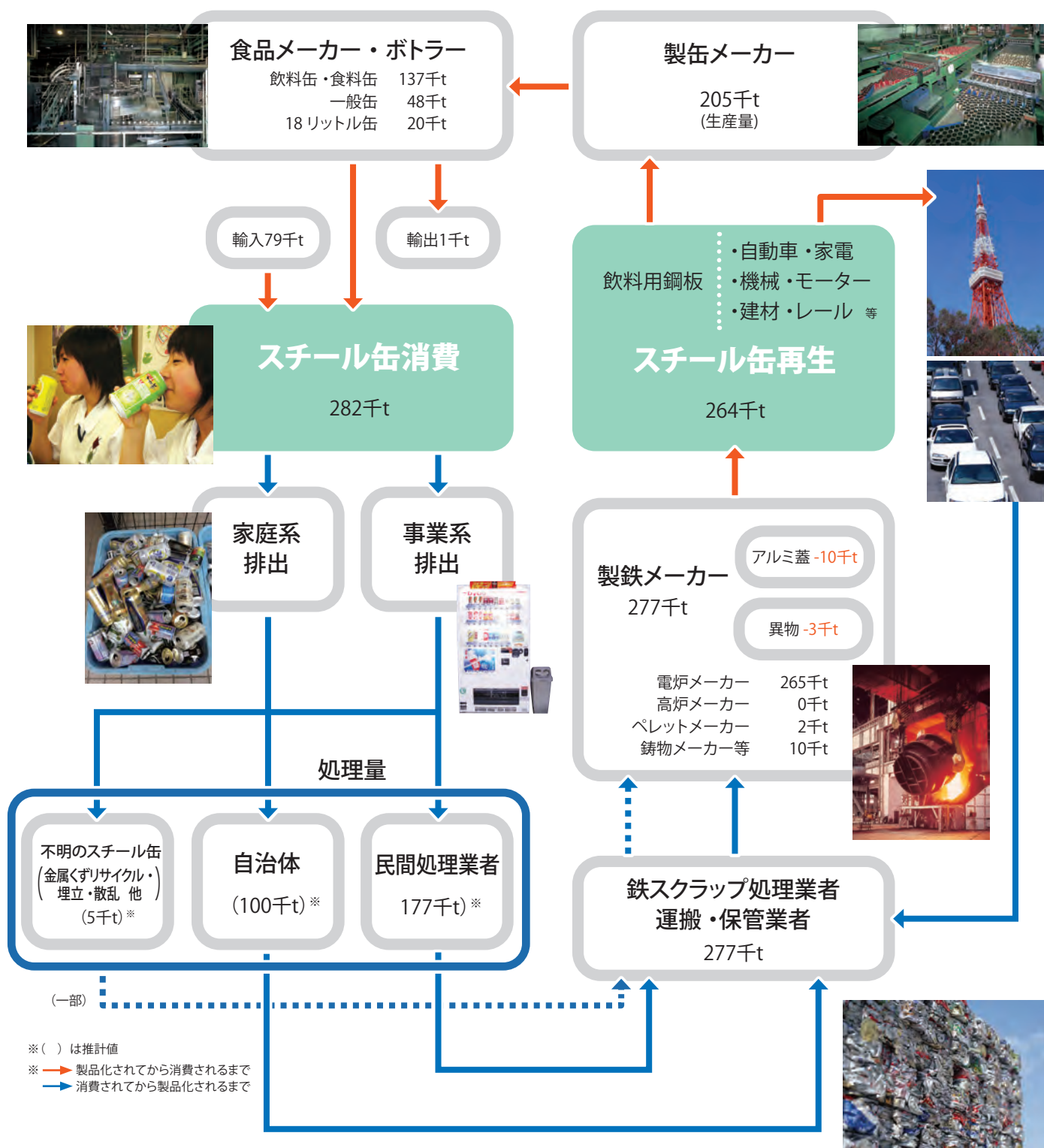


第1章

2. スチール缶のリサイクルルート

- 消費された飲料缶などのスチール缶は、自治体の分別収集や不燃ごみ収集ルート、または自動販売機や事業所・工場などの事業系回収ルートによって集められます。いずれの場合も、資源化施設で磁選機によってスチール缶だけを選別し、運びやすいようにプレスし、ブロック状などに加工されます。
- 鉄スクラップはスクラップ処理業者等を経由し、製鉄メーカー（おもに電炉メーカー、高炉メーカー、鋳物メーカー）が原料として購入します。建築用の鋼材、自動車用鋼板、冷蔵庫や洗濯機、スチール缶用の鋼板など様々なものに再生されています。

〔単位：千t/年〕





第1章

3. スチール缶のリサイクル率

2025年度のスチール缶リサイクル率は93.4%

2011年度に初めて90%を超えて以来14年間にわたり、90%以上が継続しています。2021年度から始まり2025年度を目標年度とする「自主行動計画2025」のリサイクルの数値目標「93%以上維持」を達成しました。

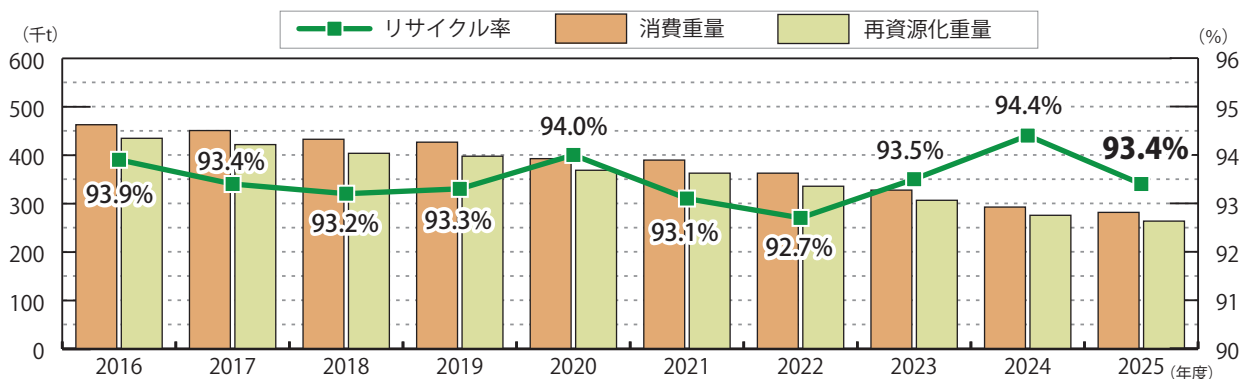
スチール缶リサイクル率が高い要因

- ①2025年の世界の粗鋼生産量は前年比1.9%減の約18億5,006万7千トン（速報）となりました。ロシア・ウクライナや中東などの情勢不安、中国経済の停滞などから鋼材需要が伸び悩み、世界粗鋼生産量は2年連続で前年実績を下回る減産傾向が継続しました。しかし、インドやベトナムなど生産好調な国も多く、2018年から8年連続で18億トン超と高い生産水準を維持しています。スチール缶スクラップは高品質で有用な製鋼原料として、引き続き高い評価を得ています。
- ②住民の協力による分別排出の徹底、自治体や事業系の分別収集システムの完備、資源化センターやスクラップ加工業者の選別・加工精度の向上などにより、スチール缶スクラップの品質は年々向上しています。スチール缶スクラップは高品質で有用な製鋼原料として、引き続き高い評価を得ています。
- ③缶スクラップの一部がシュレッター処理されて、缶スクラップ以外の規格として流通したことにより、2008年度からシュレッター処理された量の一部を把握しています。

スチール缶リサイクル率

$$\frac{\text{再資源化重量 } 263,765 \text{ トン}}{\text{消費重量 } 282,306 \text{ トン}} = 93.4\%$$

直近10年間のスチール缶リサイクル率の推移



素材別リサイクル率・回収率

素材	率	指標	算出方法
スチール缶	93.4 (2025年度)	リサイクル率	国内スチール缶再資源化重量 / スチール缶消費重量 スチール缶は何にでも何度でもさまざまな鉄鋼製品に生まれ変わるクローズドループリサイクルです ※スチール缶 = 飲料缶 + 食料缶 + 一般缶 + 18 リットル缶の一部
ガラスびん	78.3 (2025年度)	リサイクル率	再商品化量 / 国内出荷量
ペットボトル	85.1 (2024年度)	リサイクル率	リサイクル量 / 販売量
紙製容器包装	20.8 (2024年度)	回収率	回収量 / 業種全体の排出見込み量
プラスチック容器包装	68.1 (2024年度)	リサイクル率	(再商品化量 + 自主回収量) / (市町村回収量 + 自主回収量)
アルミ缶	94.7 (2025年度)	リサイクル率	再生利用重量 (国内分 + 輸分) / 消費重量
紙パック	38.9 (2024年度)	回収率	国内紙パック回収量 / 飲料用紙パック原紙使用量 (損紙・古紙を含む)
段ボール	97.8 (2024年度)	回収率	段ボール古紙実質回収量 / 段ボール原紙消費量 + 輸出入製品に付随する段ボールの入超量

各団体ホームページより



第2章

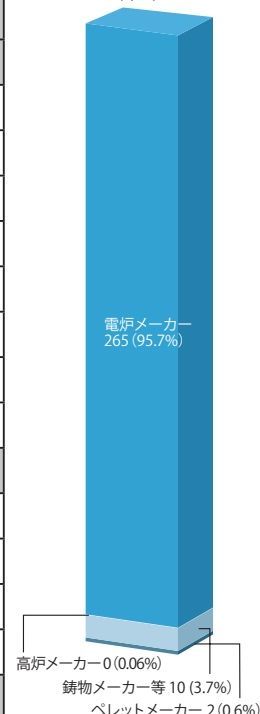
1. スチール缶スクラップの購入量

地域別・業種別スチール缶スクラップ購入量

(千t/年)

業種別スチール缶スクラップの購入量
(千t)

	2024年度					2025年度					(A-B)
	プレス	シュレッダー	その他	計(B)	%	プレス	シュレッダー	その他	計(A)	%	
北海道	8	0	1	9	3.1%	8	0	1	10	3.4%	1
東北	11	0	5	16	5.5%	12	0	6	18	6.4%	2
関東	75	19	6	100	34.4%	71	23	10	104	37.7%	5
北陸	1	4	1	5	1.9%	1	3	1	5	1.9%	0
東海	24	7	7	37	12.8%	25	7	5	38	13.7%	1
近畿	78	3	4	85	29.2%	56	3	5	65	23.6%	-19
中国・四国	9	1	0	11	3.7%	11	1	1	13	4.8%	3
九州・沖縄	9	12	6	27	9.4%	9	13	0	23	8.3%	-4
計	214	46	29	290	100.0%	194	52	31	277	100.0%	-13
電炉メーカー	208	44	28	279	96.3%	186	49	29	265	95.7%	-14
高炉メーカー	0	0.1	0	0	0.02%	0	0	0	0	0.06%	0
鋳物メーカー等	6	3	0	9	3.1%	7	3	0	10	3.7%	1
ペレットメーカー	0	0	1	1	0.5%	0	0	1	2	0.6%	0
計	214	46	29	290	100.0%	194	52	31	277	100.0%	-13



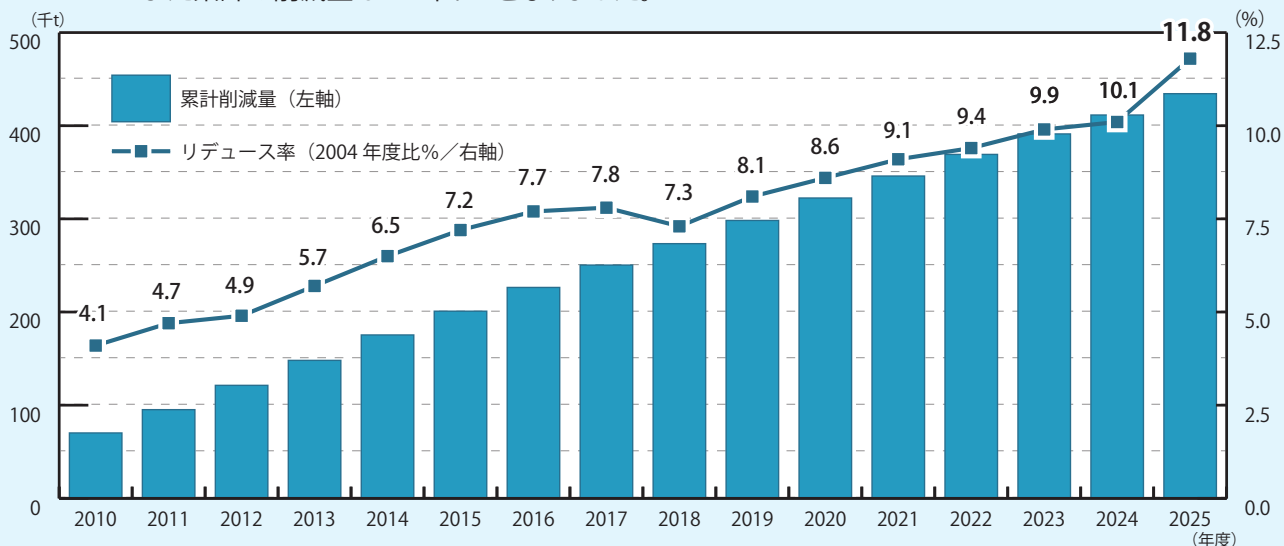
スチール缶のリデュースについて

日本製缶協会が2006年6月に立ち上げた「スチール缶軽量化推進委員会」にて、2004年度を基準年度とした軽量化目標を掲げた自主行動計画を策定し、業界挙げて軽量化に取り組んできました。

この結果、第1次自主行動計画（2006年度～2010年度）、第2次自主行動計画（2011年度～2015年度）、自主行動計画2020（2016年度～2020年度）ともそれぞれ目標を前倒しにて達成しました。

2021年度～2025年度を計画期間とした自主行動計画2025では「2004年度比で2025年度に1缶当たり平均重量で9%以上の軽量化」を目標とし、継続して取り組んだ結果、2025年度のリデュース率は11.8%となり目標を達成しています。

また累計の削減量は434千トンとなりました。



鉄スクラップ検収統一規格

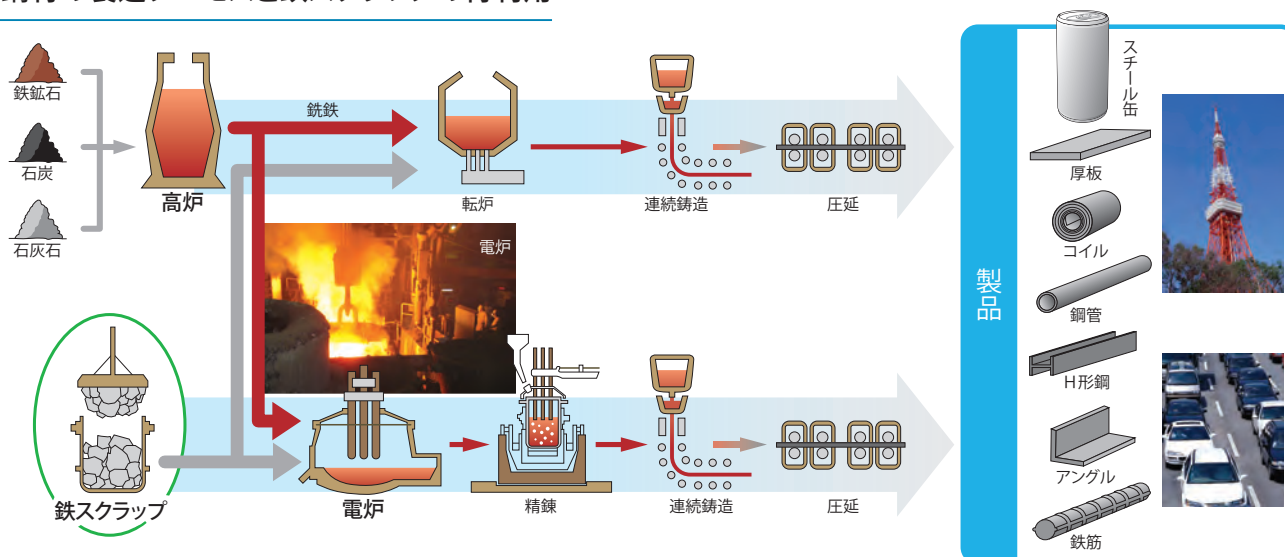
検収統一規格とは、鉄スクラップの流通において使用される基準で、品質、等級などで設定されている。現在は、以下の規格が日本全国で利用されており基準を満たしたものが「鉄スクラップ製品」となる。ただし、事業所によって製鋼設備能力、生産品種などが異なるため、以下の規格を基本としつつ、製鋼メーカーが独自の検収規格を用いている場合もある。

分類	品種	等級	寸法 (mm)		単重 (kg)	注記
			厚さ	幅または高さ×高さ		
炭素鋼スクラップ	ヘビー	ギロチンシャー、ガス溶断、重機などでサイジングしたもので、厚み、寸法、単重により以下に区分する。				
		H5	6 以上	500 以下 x 700 以下	600 以下	
		H1	6 以上	500 以下 x 1200 以下	1000 以下	
		H2	3 以上～ 6 未満	500 以下 x 1200 以下	1000 以下	
		H3	1 以上～ 3 未満	500 以下 x 1200 以下	1000 以下	
		H4	1 未満	500 以下 x 1200 以下	1000 以下	
	プレス	主として鋼板加工製品を母材にしてプレス機により圧縮成形した直方体状のもので、母材により以下に区分する。				
		A	3 辺の総和1800 以下、最大辺800 以下			主に使用済み自動車をプレスしたもの
		B	3 辺の総和1800 以下、最大辺800 以下			A プレス、C プレスでないもの
		C	上限寸法は同上、下限は 3 辺総和600 以上			飲料缶をプレスしたもの
	シュレッダー	主として鋼板加工製品を母材にしてシュレッダー機により破碎したあと磁気選別機で選別された鉄スクラップで、母材により以下に区分する。				
		A				主に使用済み自動車を破碎したもの
		B				上記以外の混合品
	新断	鋼板加工製品を製造する際に発生する切りくず及び打ち抜きくずで、形状、酸化の程度により以下に区分する。				
		シュレッダー				新断をシュレッダー処理したもの
		プレス A	3 辺の総和 1800 以下、最大辺 800 以下			表面処理していない薄鋼板で酸化していないもの
		プレス B	3 辺の総和 1800 以下、最大辺 800 以下			多少酸化している薄鋼板又は鋼材材質に悪影響を及ぼさない表面処理鋼板
		バラ A	幅又は高さ 500 以下 x 長さ 1200 以下			表面処理していない薄鋼板で酸化していないもの
		バラ B	幅又は高さ 500 以下 x 長さ 1200 以下			多少酸化している薄鋼板又は鋼材材質に悪影響を及ぼさない表面処理鋼板
		鋼ダライ粉	ネジ、機械部品などを製作する際に発生する切削くず及び切り粉で、形状、酸化の程度により以下に区分する。			
	A					普通鋼切削くずで酸化の少ないもの、チップ状のもの
	B					普通鋼切削くずで多少酸化しているもの、パーマ状のもの
	プレス		3 辺の総和 1800 以下、最大辺 800 以下			普通鋼切削くずで酸化の少ないものをプレスしたもの
鉄スクラップ	故鉄	使用済み鋳物製品を細かく打ち砕いたブロック状のもので、母材により以下に区分する。				
		A	1 辺 1200 以下		1000 以下	機械鉄、道具鉄等の上鉄、モーターブロック完全解体
		B	1 辺 1200 以下		1000 以下	並鉄、モーターブロック未解体（油ぬきもの）
	鉄ダライ粉	鋳物製品を生産する際に発生する切削くずで、酸化の程度により以下に区分する。				
		A				鋳物切削くずで酸化の少ないもの
		B				多少酸化した鋳物切削くず

- 2025年度、国内で約8,032万トンの鉄が生産されました。鉄鋼の製造方法には、「高炉法」と「電炉法」があります。国内の鉄鋼生産シェアは、高炉が74.1%、電炉が25.9%という比率でした。
- 建設、自動車、機械、缶容器などとして使われ排出された鉄は、再び鉄スクラップとして、鉄鋼メーカー（高炉、電炉、鋳物メーカー等）で再生されます。
- 国内市場で取引されている鉄スクラップ（市中スクラップ）は2025年度が2,287万トン（前年度に比べて49万トンの減少）。これ以外に2025年度の輸出量は753万トンでした（前年度比72万トンの増加）。

	製造方法	企業・工場数
高炉メーカー	高炉で鉄鉱石を還元してつくった銑鉄（せんてつ）を転炉に入れる際に、鉄スクラップを挿入して、鋼を製造する。	3社 13工場
電炉メーカー等	電炉（電極の放電熱で鉄屑を溶解する炉）等で鉄スクラップを溶解し、鋼等を製造する。	43社 63工場

鋼材の製造プロセスと鉄スクラップの再利用



鉄スクラップの発生量（2025年度）



注：国内市中スクラップ（国内製鋼所向け）の量は加工スクラップと老廃スクラップの合計に過欠補正値を加えたもの

出所：（一社）日本鉄源協会

用語説明

高炉	銑鉄（せんてつ）を作るための炉で、鉄鉱石、コークス（石炭）、石灰石を投入する
転炉	鋼をつくるための炉で、溶けた銑鉄を入れて、酸素を吹き込む。軸を中心に360度回転できる構造をもつ
電炉	電極の放電熱で鉄スクラップを溶解する炉
精錬	質のよいものにするため、粗金属から不純物を除く
鋼（はがね）	炭素含有量が約2%以下の鉄
銑鉄（せんてつ）	炭素含有量が約2%以上の鉄
自家発生スクラップ	鉄鋼メーカーの製鋼。圧延過程で発生し、工場内で発生、消費されるスクラップ
市中スクラップ	スクラップ市場で取引されるスクラップ
加工スクラップ	鉄鋼を素材として使用する自動車、機械、造船などの製造過程で発生するスクラップ
老廃スクラップ	ビル解体などによる解体屑や廃車、廃家電、スチール缶スクラップなど



第2章

3. 鉄スクラップの価格

鉄スクラップ価格の決まりかた

- ①その時々各地域における需要と供給の関係
- ②国際商品であるため海外、特にアジア市況など国際価格との関係
- ③市中回収・加工業者の回収・加工コスト
- ④鉄鉱石等の原料価格動向と高炉メーカーの溶銑コスト

スチール缶スクラップとH2（ヘビースクラップ代表品種）との価格の関係

スチール缶スクラップは、市中スクラップのうち、指標品種のH2の価格変動と同じような推移を示します。スチール缶スクラップ（Cプレス）とH2との価格差は需給や海外市況動向、地域により異なりますが、2,000円から9,000円程度。

近年では評価が高まり、価格差が狭まっています。Cプレスの質が良ければ、H2よりも高価格で取引されているケースもあります。

自治体でのスチール缶プレス売却価格とスクラップ価格との関係

自治体で選別加工したスチール缶プレスは、スクラップ処理業者、運搬業者などを通して鉄鋼メーカーに納入されます。このため鉄鋼メーカーでのスクラップ購入価格（炉前価格）から、中間経路でのコストを差し引いた価格が自治体のスチール缶プレス売却価格となります。

鉄スクラップの価格動向（2025～2026年）

円安や原油高などを強材料にH2相場は5万円台を回復

国内市場の鉄スクラップ市況は、2025年夏から2026年夏までの1年間にわたり、概ね上伸基調の推移を続けました。この結果、2026年4月までに約1万円の値上がりを見せ、H2相場が1トンあたり5万円台を回復。7～8月にかけて続落するまで5万円台前半で推移しました。国内粗鋼生産量は引き続き減産傾向で、鉄スクラップ需要量は減少していますが、一方で市中スクラップの発生量は低迷を続けており、国内市場の鉄スクラップ需給は概ね均衡した状態となっています。そうした状況の中、円安の進行や中東情勢の悪化に伴う原油高などが主な要因となり、国内鉄スクラップ相場を大きく押し上げました。

海外市場の鉄スクラップ市況に最も影響を与えたのは、原油価格の動きでした。中東情勢が緊迫化した2月末から原油価格が高騰すると、世界的に鉄スクラップ価格が続伸することになりました。これは日本産鉄スクラップの輸出価格を押し上げ、国内相場上伸の要因の一つとなりました。ただ、原油価格の高騰が収まると鉄スクラップ市況も上げ一服となり、7～8月には続落する展開となりました。

スチール缶プレスの価格動向（2025～2026年）

スチール缶プレス価格は4万円台後半へと続伸

スチール缶プレス価格も2025年夏から長い上伸基調を続けました。関東地区のスチール缶プレスの月間平均価格は、2025年8～9月の1トンあたり3万4,200円を底値に続伸し、2026年3月には4万2,300円と4万円台を回復。6月には4万8,300円まで上げ進みました。その後、やや下落しましたが、8月中旬時点で4万円台を維持しています。鉄スクラップを主原料として利用する電炉メーカーでは、品質が安定し、成分が明確なスチール缶スクラップに対する高い評価が定着しています。また、カーボンニュートラルの実現を見据え、高炉メーカーが一部製品の生産を電炉へ移管する計画が進行しています。CO2排出削減を図る手段の一つとして国内外で鉄スクラップの利用がさらに拡大する見通しです。スチール缶スクラップの評価はさらに高まりそうです。

（年平均 円/t）

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年 (1～8月)
関東地区	14,500	23,800	29,400	22,200	19,600	41,300	47,100	45,100	41,900	35,200	44,100
関西地区	15,100	23,900	29,600	22,700	20,500	43,600	49,100	46,000	43,600	37,200	45,500
西日本の代表的な事業所	18,100	27,200	32,200	24,600	23,000	46,700	51,300	49,000	46,100	40,100	48,700

★スチール缶プレスの価格動向については

㈱日刊市況通信社では内外のスクラップ市況動向、トピックス、話題、リサイクルに係わる法律の解説、などを掲載した日刊紙「日刊市況通信」、月刊誌「MRM（メタル・リサイクル・マンスリー）」を発行しています。

ホームページはこちら→



① 2025年9月から急伸、H2・5万円台を回復

2024年7～9月の急落から1年弱、国内鉄スクラップ市況はH2が1トンあたり4万円前後で小幅な値動きに終始しました。その後、2025年9月から急伸する展開となり、2026年4月にはH2が5万円台を回復。概ね5～6月まで上伸が続きました。この間の国内主要3地区のH2炉前総合価格の値上がり幅は1万4,000円強（約35%）となり、2024年7～9月の下げ幅1万3,000円弱（約25%）を上回る上げ幅となりました。

この長い上げ相場の要因は、為替円安、関税措置による米国内需要の増加、中東情勢の悪化に伴う原油高の影響などが挙げられます。その多くが外部要因であり、需要増に伴う値上がりとは言えないことが大きな特徴です。為替相場は、2025年8月の月間平均1米ドル＝148.71円（TTS）から2026年7月には163.60ドルへと下落しました。円安は日本産鉄スクラップのドル建て価格を押し下げることで競争力を増し、一方では円建て価格を押し上げる効果があるため、国内市況は大幅に上昇しました。さらに海外市場では、米国内市況が関税措置による国内粗鋼生産拡大と内需増、冬場の寒気による市中スクラップの発生・荷動き減などの影響で2025年12月から急伸する展開となりました。これが世界に波及し、日本の相場に対しても強材料となりました。次いで、中東情勢の悪化に伴い2026年3月以降、原油先物価格が急騰します。ロシア・ウクライナ戦争勃発時以来の水準でした。これはエネルギーコストや輸送コストなどのコストアップ要因となるほか、鉄鉱石や原料炭など他の製鉄原料価格の上昇にもつながりました。これらが間接的に鉄スクラップ価格を押し上げることとなりました。これらに加え、市中スクラップの発生低迷が続いていることが、国内需給を引き締め、相場上伸の要因となりました。

国内外の鉄スクラップ市況・需給動向

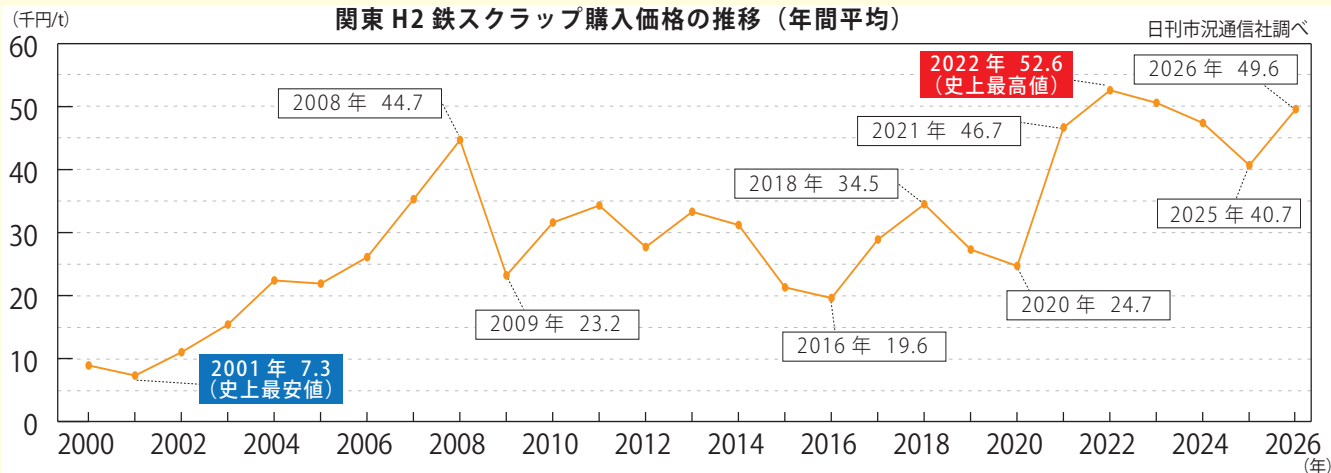
- ① 為替相場・原油価格など外部要因に左右される状況続く
- ② 関税措置による米国の粗鋼生産量回復、鉄スクラップ需要増で国際相場の強要因に
- ③ 中国の鋼材輸出量は前年比で減少傾向も1億トン超の水準維持、鋼材需給の緩和要因
- ④ トルコやアジア諸国の引き合いに積極さ欠ける、輸出商談は停滞気味
- ⑤ 国内鉄スクラップ市況、H2・5万円台回復も小幅反落、ただし底堅さ残る

② 2026年の鉄スクラップ市況

しかし、国内粗鋼減産による鉄スクラップ需要量の減少、中国の年間1億トン超の高水準の鋼材輸出など、従来の弱材料は残ったままです。このため、円高、原油価格の下落などが重なった7月以降、国内相場は反落し、H2が5万円を下回る水準へと値下がりしました。ただし、為替相場は介入後に大幅に円高に触れましたが、その後は円安傾向に転じています。また、中東情勢の先行きは不透明で原油価格は短期間での上げ下げが続いています。これらの外部要因が鉄スクラップ市況に影響を与える状況がしばらく続きそうです。また、世界経済の先行き不透明さから、鉄スクラップ輸入国のトルコやアジア諸国の引き合いに積極さが欠け、日本玉の輸出商談は停滞気味の推移となっています。一方、市中スクラップの発生は依然として低迷しており、これは鉄スクラップ市況を下支えする要因となるでしょう。

関東 H2 鉄スクラップ購入価格の推移（年間平均）

日刊市況通信社調べ





第3章

スチール缶リサイクルの実態～自治体アンケートより～

スチール缶の資源化に関するアンケート 2026 集計結果

当協会では、自治体の資源収集の実態を把握するため、スチール缶の資源化に関するアンケート調査を毎年行っています。アンケート結果は、第3章スチール缶リサイクルの実態、第4章まち美化対策の実態で記載しています。

調査対象期間：2025年4月～2026年3月

調査実施期間：2026年5月～7月

対象：全国の市及び東京23区（計815区市）

回答自治体数：672区市

回収率：82.5%

人口カバー率：83.7%

総務省統計局人口：1億2,321万人

※小数点以下は端数処理のため合計値と合わない場合がある



自治体が分別収集している品目（複数回答）

「びん」、「ペットボトル」、「アルミ缶」、「飲料用スチール缶」、「食品用スチール缶（缶詰等）」は9割を超え、2015年度から変わらずほとんどの自治体で分別収集されている。

容器包装以外では「新聞」、「雑誌」、「雑がみ」、「有害物・危険物」が8割を超えている。また、すべての品目で増加している。

2025年から新たに選択肢に加えた「リチウムイオン電池・蓄電池」は64.9%であった。

2021年に制定されたプラスチック資源循環促進法で資源化対象物となった「製品プラスチック」は36.0%であった。

「その他」には陶磁器・ガラス、枝葉・草、発泡スチロール、インクカートリッジ等があった。

		2015年度	2020年度	2025年度
容器包装	びん	98.0	98.4	99.6
	ペットボトル	95.7	95.9	98.5
	アルミ缶	96.5	97.4	97.5
	飲料用スチール缶	96.7	97.6	97.2
	食品用スチール缶（缶詰等）	—	89.6	92.3
	お茶・菓子缶（一般缶）	—	88.5	88.1
	段ボール	84.8	85.0	86.6
	飲料用紙パック	78.6	78.4	80.1
	プラスチック製容器包装	65.9	63.6	71.1
	紙製容器包装	52.4	53.8	53.3
新聞	新聞	84.0 (古紙類)	84.2 (古紙類)	85.7
	雑誌			85.6
	雑がみ		79.3	81.0
有害物・危険物		51.5 (スプレー缶)	67.3 (スプレー缶・ボンベ)	84.4
リチウムイオン電池・蓄電池		—	—	64.9
小型家電		34.0	47.6	64.1
布類・古着類		54.9	56.4	62.4
金属類		44.9	39.9	50.6
廃食油		—	25.9	36.8
製品プラスチック		—	8.8	36.0
その他		40.8	19.1	11.9
		(n=762)	(n=740)	(n=672)

飲料用スチール缶と同じ排出容器と一緒にに入れて収集する品目（複数回答）

「アルミ缶」、「食品用スチール缶（缶詰等）」、「お茶・菓子缶（一般缶）」と同じ容器で収集する自治体が多く、2015年度から変わらず8割を超えている。

一方、「飲料用スチール缶のみ」で収集しているのは、1.7%であった。

「スプレー缶・カセットボンベ」は発火事故防止のためか、減少している。

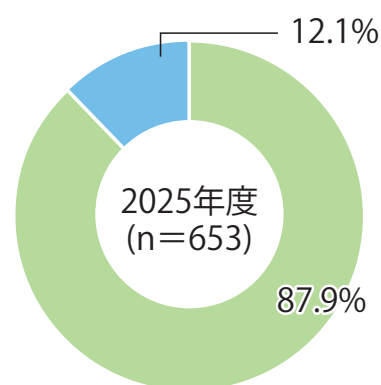
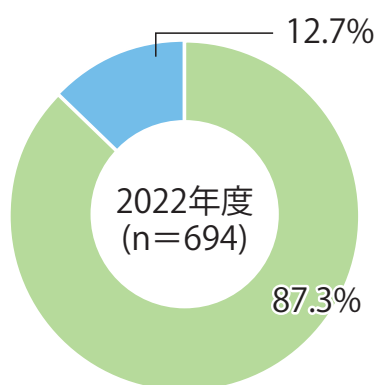
	2015年度	2020年度	2025年度
なし（飲料用スチール缶のみ）	1.1	1.9	1.7
アルミ缶	86.3	86.7	86.8
食品用スチール缶（缶詰等）	89.8	88.8	86.5
お茶・菓子缶（一般缶）	84.7	81.6	81.0
スプレー缶・カセットボンベ	39.1	34.3	31.1
びん	21.3	21.2	21.3
18リットル缶（ガロン缶）	15.5	14.1	15.2
金属類	12.6	10.9	11.0
ペットボトル	6.2	6.5	6.1
その他	7.7	5.0	5.4
	(n=737)	(n=722)	(n=653)

飲料用スチール缶収集の有料化

「無料」が87.9%で8割を超えた。

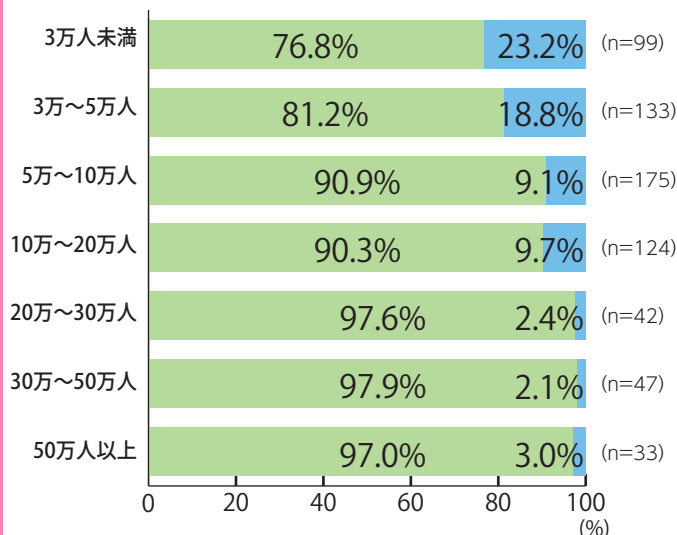
有料化を調査し始めた2022年度と、傾向は変わらない。

■ 無料
■ 有料
() 区市数



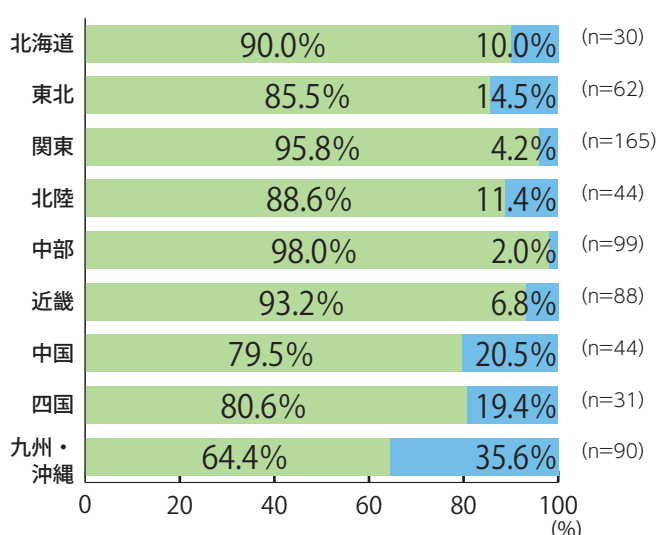
人口別

「有料」は「3万人未満」で23.2%と最も高く、人口が少ない自治体ほど割合が高い傾向にある。



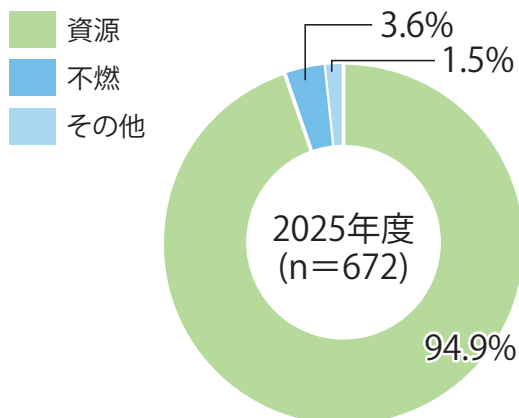
地域別

「有料」は「九州・沖縄」が35.6%と最も高く、次いで「中国」が20.5%であった。



飲料用スチール缶収集の分類

排出時の分類表記は「資源」が94.9%と大半を占めた。



スチール缶の選別方法

収集されたスチール缶の選別方法は「磁選+手選別」が53.6%で最も高く、次いで「磁選のみ」が30.7%であった。

一方、「選別しない」は7.9%であった。

		2025年度 (%)
選別する	選別しない	7.9
	磁選+手選別	53.6
	磁選のみ	30.7
	手選別のみ	3.9
	その他	3.9
合計		100.0

(n=642)

選別後、飲料用スチール缶と混ざっているもの（複数回答）

「食品用スチール缶（缶詰等）」が73.9%と最も高く、次いで「お茶・菓子缶（一般缶）」が59.7%であった。

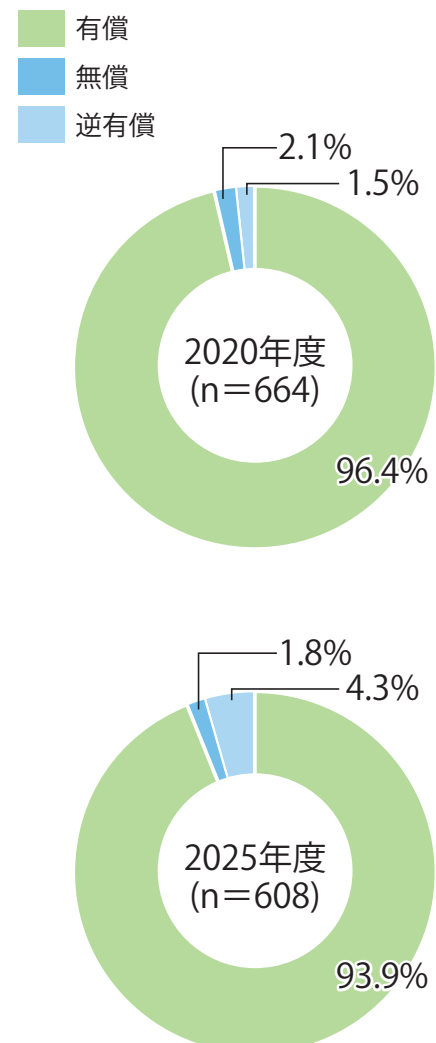
「飲料用スチール缶のみ」は22.8%であった。

	2025年度 (%)
飲料用スチール缶のみ	22.8
食品用スチール缶(缶詰等)	73.9
お茶・菓子缶(一般缶)	59.7
スプレー缶・カセットボンベ	22.2
18リットル缶(ガロン缶)	10.0
アルミ缶	9.6

(n=591)

スチール缶の価格状況

「有償」での取引が93.9%で大半を占めた。2020年度と比較すると、「逆有償」と「無償」が入れ替わっている。



スチール缶の加工形態

選別されたスチール缶の加工形態は「プレス」が85.8%で最も高く、2015年度から変わらず8割を超えた。

一方、「加工しない」は7.2%であった。

		2015年度 (%)	2020年度 (%)	2025年度 (%)
加工する	加工しない	4.3	4.6	7.2
	プレス	84.9	84.9	85.8
	シュレッダー	3.4	3.4	2.0
	1缶プレス	0.3	0.7	1.1
	その他	7.2	6.4	3.9
合計		100.0	100.0	100.0

(n=728) (n=703) (n=640)

スチール缶の資源化量

行政収集によるスチール缶の資源化量は、2025年度実績の推計で78,096トンであった。

これを全国ベースに換算すると、前年度より6,031トン減の93,321トンである。

「その他」は、複数の加工形態を併用している等の回答であった。

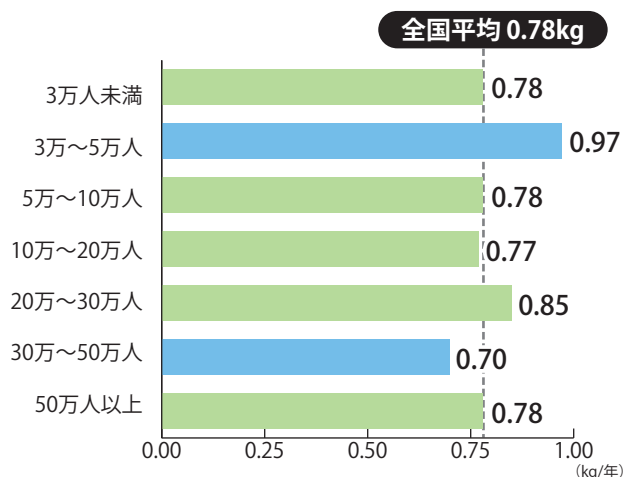
(t/年)

		2025年度
加工しない		4,831
加工する	プレス	64,828
	シュレッダー	787
	1缶プレス	630
	その他	7,020
合計		78,096

1人あたりのスチール缶資源化量

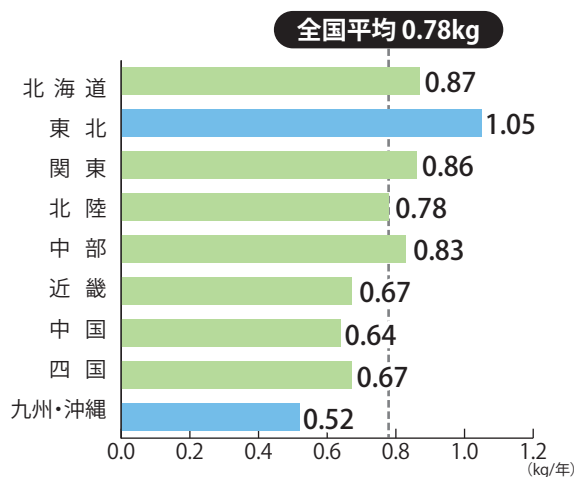
人口別

1人あたりの資源化量は、全国平均で0.78kgで、「3万～5万人」が0.97kgで最大、「30万～50万人」が0.70kgで最小であった。



地域別

「東北」が1.05kgで最大、「九州・沖縄」が0.52kgで最小であった。



望ましいスチール缶の加工形態

スチール缶を「資源」として円滑にリサイクルするため、容器包装リサイクル法の分別基準に適合していることが最も重要です。

適切なスチール缶プレス

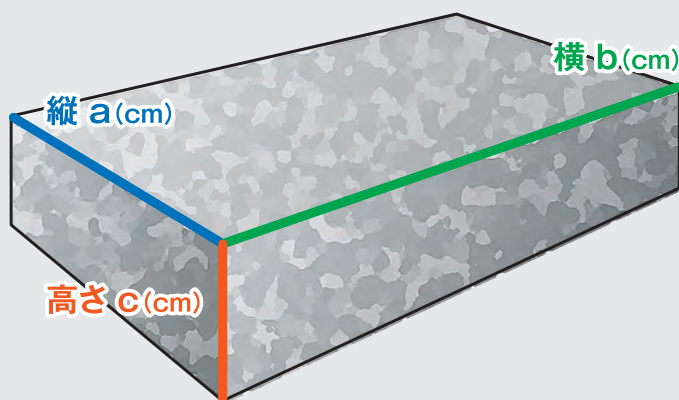
((一社)日本鉄資源協会「鉄スクラップ検収統一規格」より)

[大きさ]

- ・ 最大辺80cm以上
- ・ $60(\text{cm}) \leq a+b+c \leq 180(\text{cm})$

[かさ比重]

- ・ $0.6\text{t}/\text{m}^3$ 以上



法律では異物が無いことが条件となっていますが、調査結果では未だに異物の混入が多く見られます。ご注意ください。

不燃ごみからのスチール缶（鉄類）回収量

2025年度実績の推計で、170,023トンであった。このうちスチール缶量は、6,398トンである。

これを全国ベースに換算すると、185,535トン、うちスチール缶量は6,981トンである。

「その他」は、複数の加工形態を併用している等の回答であった。

(t/年)

回収・加工形態	鉄類回収量	スチール缶回収量
破砕+磁選	92,136	2,980
破砕+磁選+プレス	23,631	1,245
手選別のみ	14,948	507
破砕のみ	2,492	89
磁選+プレス	1,958	46
その他	34,858	1,531
合計	170,023	6,398

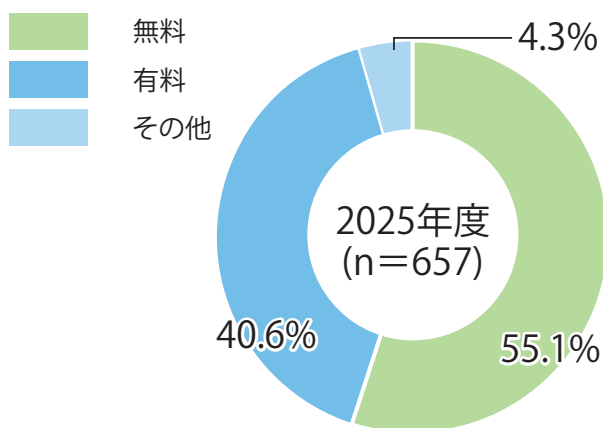
(n=501)

注. 東京都区部については、東京23区一部事務組合データより算出

全国	185,535	6,981
----	---------	-------

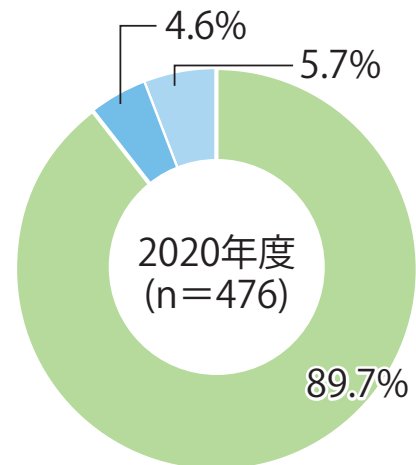
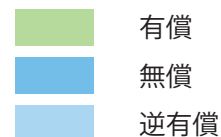
不燃系ごみ収集の有料化

「無料」が55.1%で半数以上を占めた。



不燃系ごみから回収した鉄類の最新売却状況

「有償」が90.1%で、2020年度と変わらず約9割を占めた。



鉄類の回収・加工形態

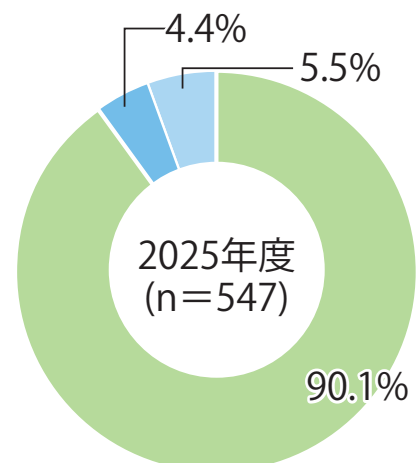
鉄類は「破砕+磁選」後に「有償」で取引されることが38.4%と最も高く、次いで「破砕+磁選+プレス」後に「有償」で取引されることが14.4%であった。

(%)

	有償	無償・逆有償
破砕+磁選	38.4	3.4
破砕+磁選+プレス	14.4	1.3
手選別のみ	12.7	2.2
破砕のみ	1.9	0.0
磁選+プレス	1.1	0.2
その他	21.8	2.6
合計	90.3	9.7

(n=484)

(n=52)



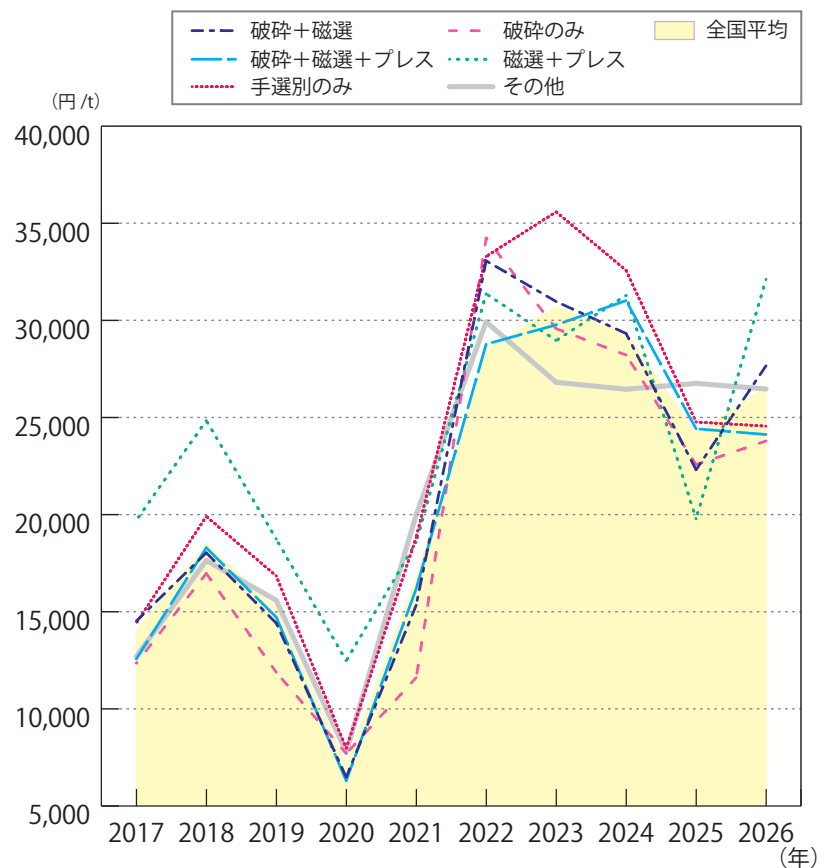
鉄類の最新売却価格の変動【有償の場合】

2020年は新型コロナウイルスの影響により、全体で価格が大きく下落した。

2021年からは回復して上昇し、2023年から下落が続いていたが、2026年7月現在は全体で上昇傾向にある。

	(円/t)
	2026年5~7月
磁選+プレス	32,121
破碎+磁選	27,663
手選別のみ	24,557
破碎+磁選+プレス	24,124
破碎のみ	23,793
その他	26,467
平均	26,576

(n=441)



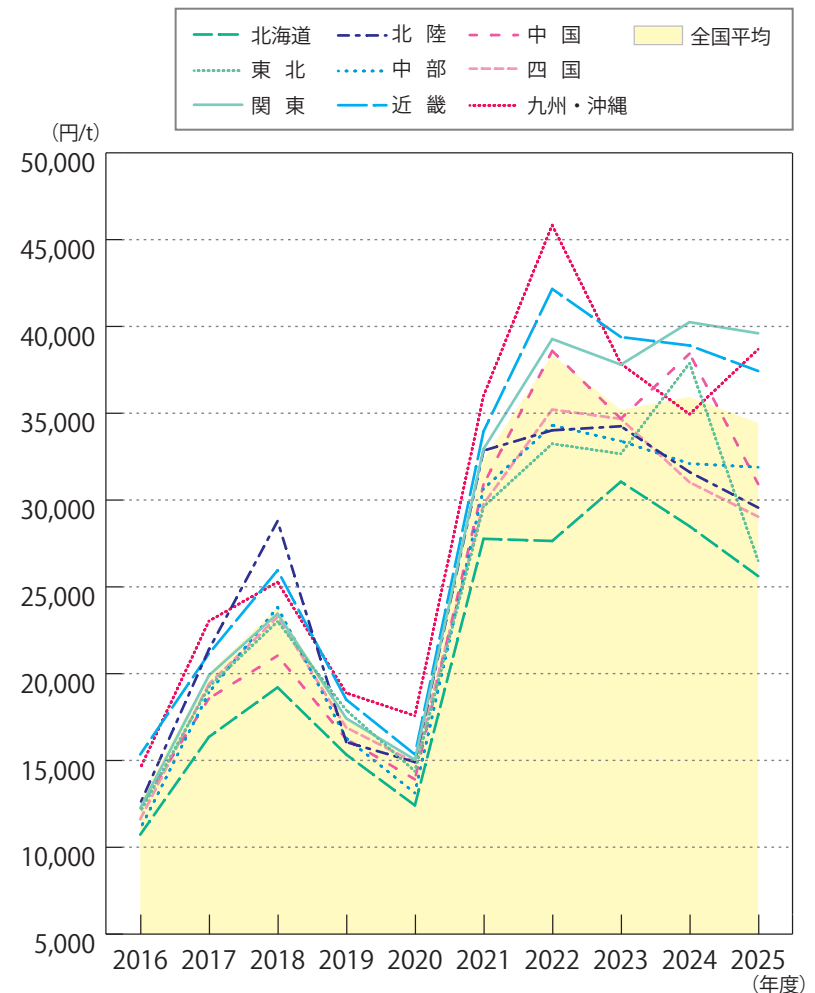
スチール缶プレスの年度平均売却価格【地域別】

2016年度、2019年度の下落から、2021年度大幅に上昇した。

2025年度は「九州・沖縄」のみ上昇した。「北海道」が、最も低い傾向は変わらない。

	(円/t)
	2025年度
北海道	25,617
東北	26,504
関東	39,606
北陸	29,562
中部	31,888
近畿	37,432
中国	30,918
四国	29,040
九州・沖縄	38,687
平均	34,443

(n=483)



スチール缶の最新売却価格【形態別】

「プレス（ブロック状）」が38,532円/トンで最も高く、「シュレッダー」が29,304円/トンで最も安い。

	(円/t)
	2026年5～7月
プレス(ブロック状)	38,532
1缶プレス	34,286
シュレッダー	29,304
その他	26,594
平均	38,154

(n=527)

スチール缶プレスの最新売却価格【地域別】

「北海道」が29,827円/トンで最も安く、「関東」が45,916円/トンで最も高い。

	(円/t)
	2026年5～7月
北海道	29,827
東北	31,401
関東	45,916
北陸	30,291
中部	33,480
近畿	41,751
中国	34,412
四国	33,194
九州・沖縄	42,320
平均	38,532

(n=483)

スチール缶プレスの最新売却価格【価格別】

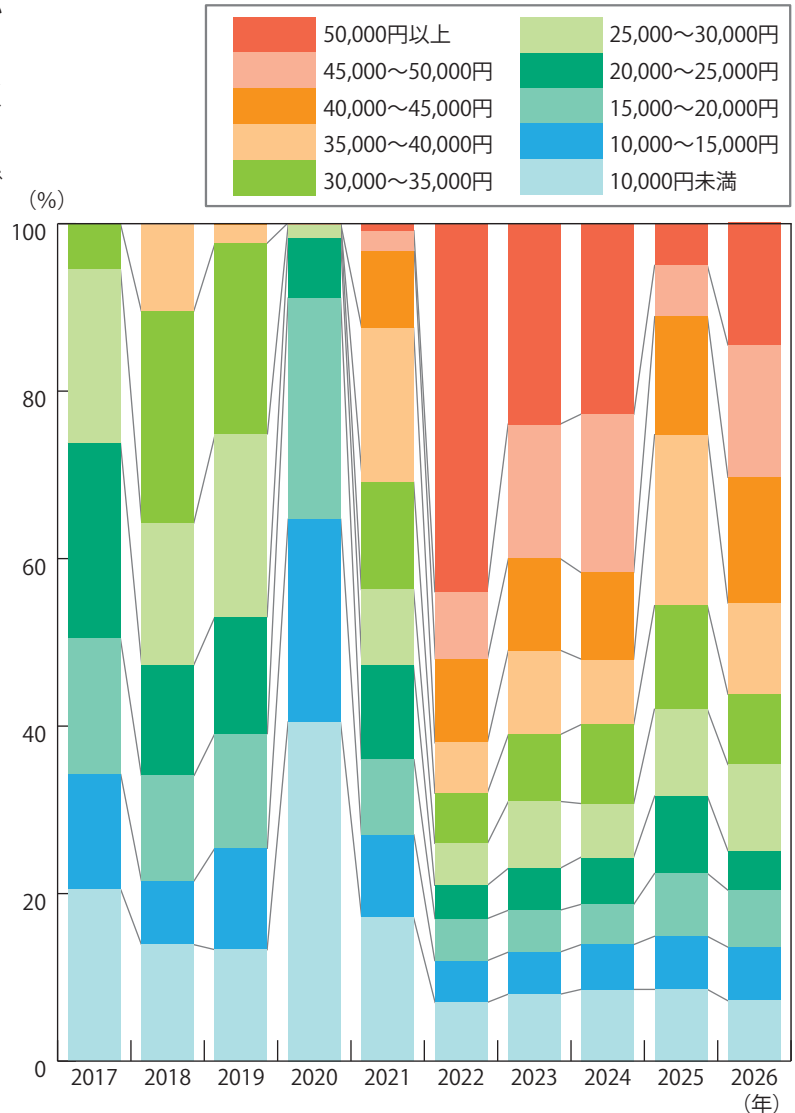
2022年以降「50,000円以上」の割合が高い状態が続いていたが、2025年は下降した。

2026年は「45,000～50,000円」が最も高く15.8%を占めた。

次いで「40,000～45,000円」が15.0%であった。

価格(円/t)	(%)
	2026年5～7月
50,000円以上	14.6
45,000～50,000円	15.8
40,000～45,000円	15.0
35,000～40,000円	10.9
30,000～35,000円	8.4
25,000～30,000円	10.3
20,000～25,000円	4.7
15,000～20,000円	6.8
10,000～15,000円	6.4
10,000円未満	7.2
合計	100.0

(n=487)





第4章

まち美化対策の実態 ～自治体アンケートより～

スチール缶リサイクル協会は、1973年から「散乱防止・美化キャンペーン」を行っており、これまでの**53**年間に、開催回数は**518**回、開催場所は**369**カ所となりました。

「スチール缶の資源化に関するアンケート」でも数年おきに自治体のまち美化対策について調査しています。2026年の回答から、まち美化対策に取り組んでいる自治体の状況をご報告します。



2026年6月、累計518回目の散乱防止・美化キャンペーンを高知市で実施しました

まち美化対策の実施状況（複数回答）

実施している対策は「地域住民の清掃活動を推進」が68.8%と最も高く、2012年度と変わらない。

次いで「清掃イベントを実施」が51.0%で、2012年度から大きく増加して半数以上を占めた。

「ポイ捨て・落書き・不法投棄等の見回り・取り締まりを実施」と「ポイ捨て・落書き・不法投棄等の条例を策定」は、2012年度から減少している。

「その他」には看板の設置やホームページなどでの啓発、花を植えるなどの緑化活動があった。

一方、「実施していない」は5.8%と低く、2012年度から減少している。

（※アダプトプログラムとは）

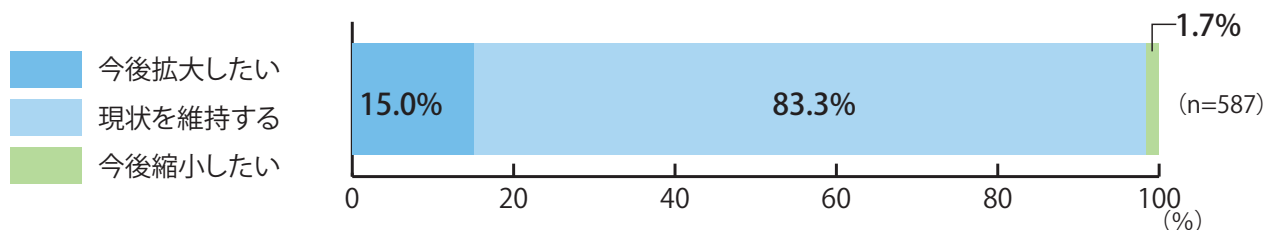
地域住民や企業が道路・公園などの公共空間を「養子」に見立てて「里親」として継続的に清掃・美化する活動で、行政が清掃用具の提供やごみの回収などで支援する「市民と行政の協働によるまちづくり」の仕組みのこと。

		（%）	
		2012年度	2025年度
実施している	地域住民の清掃活動を推進	67.0	68.8
	清掃イベントを実施	18.6	51.0
	ポイ捨て・落書き・不法投棄等の見回り・取り締まりを実施	72.6	46.6
	ポイ捨て・落書き・不法投棄等の条例を策定	63.5	39.4
	アダプトプログラム（※）を実施	17.5	22.9
	その他	4.6	4.8
実施していない		9.8	5.8
合 計		100.0	100.0
		（n=736）	（n=672）

まち美化対策について今後の意向

「現状を維持する」が83.3%で最も高く、次いで「今後拡大したい」が15.0%であった。

「今後縮小したい」は1.7%であった。





まち美化対策がうまくいっている点・成果



担当者の声

ポイ捨て・不法投棄の減少

- 回収量や指導件数、散乱ごみ量が年々減少している
- 条例による罰則、看板設置、パトロール、監視カメラ等の効果でポイ捨て・不法投棄が減少している
- 不法投棄の早期発見・早期対応ができる体制が整備されている

環境美化・景観の維持向上

- 道路、公園、海岸、河川、駅前などが継続的な清掃によりきれいに保たれている
- 花壇整備や植栽活動も景観向上に寄与している
- ごみの散乱が減り、生活環境や観光景観の改善につながっている

市民の環境意識・マナー向上

- 清掃活動や啓発活動を通じて環境美化意識が向上した
- ごみの分別やポイ捨て防止への理解が浸透している
- 条例やキャンペーンが市民のルール遵守意識を高めている

地域活動・ボランティアの定着

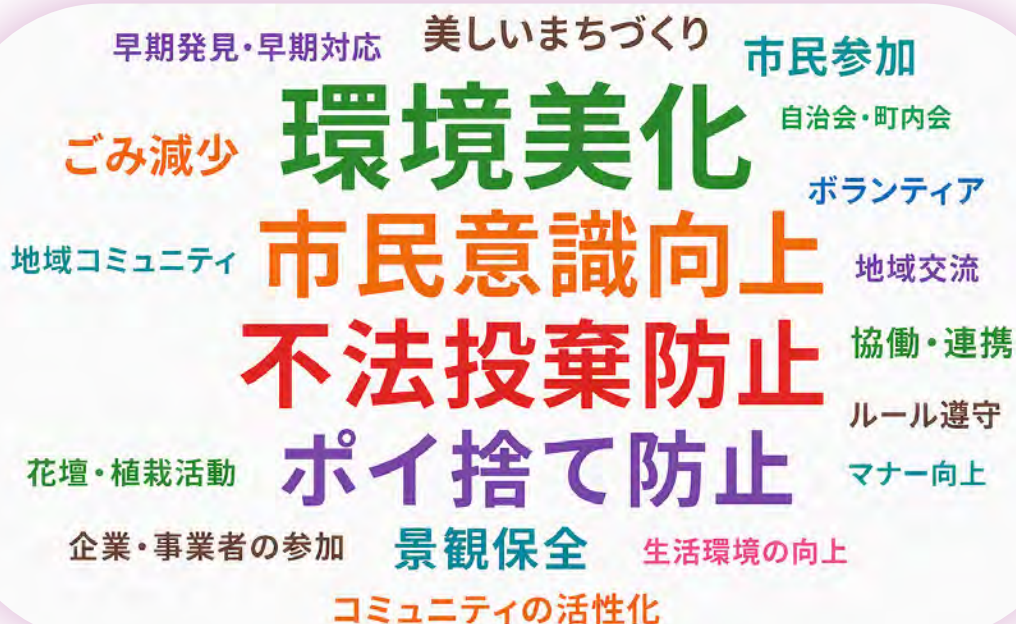
- 一斉清掃やごみゼロ運動が地域行事として定着した
- 自治会、企業、学校、ボランティア団体の参加が継続・拡大している
- 自主的な清掃活動を行う団体や市民が増加している

地域コミュニティ・協働の促進

- 清掃活動が住民同士の交流や助け合いの機会になっている
- 市民・自治会・企業・行政の連携が定着している
- 地域への愛着（シビックプライド）や共助意識の醸成につながっている

行政の効率化と負担軽減

- ボランティアや自治会などの活動により行政コストが抑制された
- ごみ収集体制やパトロール体制が充実し、効率的な管理が可能になっている
- ごみ量減少や分別の定着によりごみ処理費の軽減も見られる



※アンケート回答の記述を分析し視覚化したグラフ。出現頻度が高い単語ほど大きく中央に配置される。



まち美化対策で苦労していること・課題



担当者の声

ポイ捨て・不法投棄が 無くならない

- 同じ場所へ繰り返し投棄がある
- 夜間や人目につかない場所で発生する
- 看板やパトロールの効果に限界がある

担い手不足・高齢化

- 参加者数が減少している（高齢化、自治会などの加入率低下）
- 参加者の高齢化、後継者不足
- 参加者や活動団体が固定化している

マナー・行動変容の難しさ

- 家庭ごみの混入がある
- 投棄者の特定が難しい
- 外国人住民や観光客への周知が不足している

行政の運営・事務負担

- 人員・予算が不足している
- ごみ袋配布や回収の調整が負担
- 職員の現地対応が負担

回収・処理困難物への対応

- 自治体で処理できない廃棄物がある
- 家電、粗大ごみ、漂着ごみなどの処理負担が大きい
- 回収後の保管・処分に費用が掛かる

活動の持続性・効果向上

- 効果測定が困難で効果が見えにくい
- 地域ごとに活動差がある
- 活動がマンネリ化している
- 安全管理（交通事故・熱中症）が必要



※アンケート回答の記述を分析し視覚化したグラフ。出現頻度が高い単語ほど大きく中央に配置される。

事例1

荒川クリーンエイド・フォーラム

2024年に活動30周年を迎えた、荒川流域で清掃活動、環境教育等の企画・運営を行うNPO法人です。

調査カードを活用した「調べるごみ拾い」で、ごみの種類や数を記録して可視化し、参加者一人ひとりに「このままではいけない」と実感して気づいてもらうことで、マイボトル持参などごみを出さない意識が生まれています。

また、企業の参加も年々拡大しており、CSR活動や社員研修の一環として定着が進むなど、参加者の裾野も広がっています。

活動は荒川沿川の自治体と、国土交通省荒川下流河川事務所と協力・分担して行っています。荒川クリーンエイド・フォーラムが企画・運営と参加者が記録したデータの分析を行い、自治体は集められたごみの回収・処理、国交省は粗大ごみの処分を行っています。

また、国交省により組織された沿川2市7区を中心とした「荒川下流部ゴミ対策協議会」は全国でも珍しく、強固な連携で年間を通じていつでも河川清掃ボランティア活動が行える仕組みが整えられています。

今後の展開

2030年までに活動件数を倍増させる目標のもと、YouTube「荒川ブラックスーツ団」やアプリ「FLOAT」、マイクロプラスチックジュエリ「aid to」などエンターテインメント性を活かした発信を強化し、これまでリーチしにくかった女性層・若年層を含む幅広い層への関心喚起を図っています。

さらに、この「荒川モデル」を全国や海外へ展開し、企業や教育機関との連携を広げるなど、ごみを拾う活動から出さない社会づくりを進めています。



マイクロプラスチックジュエリ



漫画を使ったポスター

事例2

渋谷区 「きれいなまち渋谷をみんなでつくる条例」改正

渋谷区では、「きれいなまち渋谷をみんなでつくる条例」に基づき、区民や事業者と連携しながら美化活動を推進してきました。しかし、国内外から多くの来街者が訪れる渋谷駅周辺を中心に、飲料容器やたばこの吸い殻等のポイ捨てが継続的な課題となっており、美しく健全な環境を維持できなくなってきたことから、従来の啓発活動に加えより実効性の高い対策が必要と考え、2026（令和8）年4月に条例改正を実施しました。

過料が適用された6月には325件の徴収がありました。しかしながら、過料の徴収そのものを目的とするのではなく、ポイ捨てをしない意識の醸成と、まちの美化推進を主眼として、引き続き指導・啓発を進めていきます。

また、これまでもボランティアによるごみ拾い活動や、商店街フラッグ・ポスター・ビジョン広告などを活用した啓発活動に取り組んできました。今後はアニメやスポーツチームなどとの連携により、ポイ捨て防止や美化活動への関心をさらに高めるとともに、美化活動への参加の輪を広げていきます。



インパクトのある広告

改正のポイント

ポイ捨て者への過料

- 過料 2000 円、キャッシュレス決済に対応
- 巡回員が最大 60 名体制で啓発・指導及び過料徴収を実施、多言語に対応

自動販売機への回収容器設置と

特定店舗へのごみ箱設置義務

- 回収容器及びごみ箱の設置・適正管理を義務化
- 勧告→命令→公表→過料（5 万円）の段階的措置を規定

今後の展開

渋谷区での取組を東京23区、さらには全国へ波及させることを目指し、発信していきます。加えて、人の動きやごみの流れに地域の境界線はないため、引き続き近隣区との連携も進めます。さらに、海外からの来街者に「渋谷＝きれいなまち」というイメージを発信し、

シンガポールのように「ポイ捨て禁止」が国際的に認知される都市を目指します。

こうした取組を通じて、行政だけでなく区民・事業者・ボランティアが一体となった「ポイ捨てをなくす」ムーブメントを広げていきたいと考えています。



巡回の様子

事例3

仙台市 アレマキャンペーン

1999（平成11）年3月「ごみの散乱のない快適なまちづくりに関する条例」の制定を契機に、市民が「アレマ隊」となり主体的に清掃活動に参加する「アレマキャンペーン（全市一斉ポイ捨てごみ調査・清掃キャンペーン）」を開始しました。以降27年に渡り、毎年春と秋の年2回継続して実施しています。

キャンペーン初日には、オープニングイベントとして仙台駅前や商店街などを中心とした清掃活動を実施しています。また、活動場所や時間は、参加者の都合に合わせて自由に設定できます。活動結果は「アレマレポート」として市に報告いただいています。

アレマキャンペーンには例年1,000人程度が参加しており、期間中に40回以上の清掃活動を実施する団体もあるなど、継続的かつ熱心な活動が行われています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、キャンペーンの中止等で一時的に参加者数が減少したものの、近年は回復傾向にあります。

キャンペーン期間外にも市民・企業・団体等による清掃活動が継続的に行われており、自主的なまち美化活動が根付いています。



「アレマ隊」活動の様子



キャンペーンチラシ

メモ

「アレマ隊」とは、ポイ捨ての現場を見たら「アレマ!」と驚き、ごみ拾い活動をすることで、「ポイ捨て反対!」の意思表示を行なう人たちのことです。

- ごみを拾う「キレイにし隊」
- 拾ったごみを種類別に数える「数えてみ隊」
- 数えた結果をもとにポイ捨ての解決策を考え行動する「考えてみ隊」

の3つのコースがあります。



清掃活動への支援

市は、火ばさみやごみ袋の貸出・提供や回収したごみの処理などを行っています。引き続きまち美化活動の輪が広がるよう、アレマキャンペーンを継続していきます。

事例4

練馬区 ごみ拾いアプリ「ピリカ」の活用

練馬区では、2022（令和4）年10月にごみ拾いアプリ「ピリカ」の公式アカウントを開設し、地域美化活動の推進を図っています。ピリカは、利用者が拾ったごみの量の把握や利用者間で交流ができる無料のSNSアプリで、区においても、職員が区内23駅周辺の清掃活動を週1回実施し、その活動状況を投稿するなど、区民の環境美化意識の向上と活動参加の促進に取り組んでいます。

練馬区では、町会・自治会・ボランティア団体など約150団体が美化活動団体として登録し清掃活動を実施しています。区はこれらの団体に対し清掃用具の支給を行うとともに、年1回の活動報告を受けることで活動を支援しています。また、登録団体以外にも自主的に美化活動を行う団体や個人があり、区内各所で継続的な環境美化活動が行われています。

このような中、区民がより気軽に美化活動へ参加できる仕組みとして、清掃活動の様子を手軽に発信できるアプリが注目されました。同アプリは新たな経費負担を抑えながら、誰もが場所や時間を問わず美化活動に参加できることから導入したものです。拾ったごみを写真付きで投稿することで、清掃活動の見える化や他の参加者から「ありがとう」を受け取ることができます。



練馬区のピリカ投稿



公式アカウント情報

是非アプリをダウンロードして、練馬区環境課の公式アカウントをチェックしてください。

5月と11月に実施している「美化活動月間inねりま」などのイベントに参加したり、清掃活動の様子を投稿してみませんか。 詳しくは二次元コードから▲



今後の展開

近年は、喫煙所周辺のごみ問題やムクドリ騒音・ふん害対策などへの対応の必要性が高まっており、委託事業者による対応に加え、区職員による清掃や見回りも実施しています。ポイ捨て防止やまち美化対策については継続しながら取組を進め、今後は、5月・11月に実施している区内一斉清掃日に合わせてピリカを紹介するなど、広くPRして美化活動を一層広げていきます。



区職員による清掃・見守り

スチール缶リサイクル率の算出方法

スチール缶リサイクル率の算出方法は、次の通りです。

スチール缶消費重量

算出方法

2025 年 1 月～12 月における国産スチール缶の出荷重量、缶詰輸出及び輸入に使用されたスチール缶の重量、空缶として輸入されたスチール缶の重量を、経済産業省統計及び財務省貿易統計、スチール缶重量の実測値などを基に把握した。

算出結果：282,306 トン（①－②＋③＋④）

① 国産スチール缶出荷重量：205,241 トン

飲料缶・食料缶・一般缶については、経済産業省統計トン数を基に算出

18 リットル缶については、経済産業省統計トン数に全国18 リットル缶工業組合連合会発表の（食糧）比率を乗じて算出

② 缶詰輸出に使用されたスチール缶重量：1,473 トン

財務省貿易統計を基に算出

③ 缶詰輸入に使用されたスチール缶重量：77,610 トン

財務省貿易統計を基に算出。「気密容器」（缶詰だけでなく他容器も含む）にて輸入された食品缶詰・トマト及び野菜ジュース、ペットフード缶の実績重量を、日本国内で製造する場合の代表的な缶種で缶詰にされたと仮定して、缶数を推計して単位缶重量を掛けて容器重量を算出した。

うちペットフード缶輸入：15,320 トン（※（一社）ペットフード協会データより算出）

④ 空缶として輸入されたスチール缶重量：928 トン

財務省貿易統計トン数

スチール缶再資源化重量

算出方法

スチール缶が販売されてから回収再利用されるまで3ヶ月かかるとみなし、当協会から全国の電炉メーカー・高炉メーカー・ペレットメーカー・鋳物メーカー等へ、2025 年 4 月～2026 年 3 月におけるスチール缶スクラップ利用量に関する調査票を送付し、75 事業所から回答を得て集計した。

これに、全国の鉄スクラップ取扱事業者で処理され、缶スクラップ以外の規格で製鋼原料として流通したスチール缶の量を加えた。（調査により把握できた量を計上）

上記集計値からスチール缶スクラップに含まれている飲料缶用アルミ蓋の重量及びスチール缶以外の鉄くずなどの異物を除いて算出した。

算出結果：263,765 トン（①－②－③）

① スチール缶スクラップ購入量：276,608 トン

② 上記①に含まれるスチール缶以外のエアゾール缶・ビニールなどの異物重量：2,623 トン

③ 上記①に含まれる飲料缶用アルミ蓋重量：10,219 トン

スチール缶リサイクル率（2025 年度）

$$\frac{\text{再資源化重量（263,765 トン）}}{\text{消費重量（282,306 トン）}} = 93.4\%$$

スチール缶リサイクル協会の活動報告

(2025 年 10 月～ 2026 年 9 月)



京都市



年次レポート 2025

過去の年次レポートはこちら→



ちばまつり



子どもとためす環境まつり



記者説明会



エコプロ 2025

○ 2025 年 10 月

- 「スチール缶リサイクル年次レポート2025」発行
- 散乱防止・美化キャンペーン実施@京都市
- 「協会活動記者説明会」を開催
- 「子どもとためす環境まつり」に出展
- 「JFEちばまつり」に出展
- ◎ 容器包装交流セミナー in山口

○ 12 月

- 「エコプロ2025」に出展
- ◎ 容器包装リサイクル懇談会
- ◎ 自主行動計画
フォローアップ記者説明会

○ 2026 年 1 月

- 小中学校における環境教育推進を支援
：全国の15校への支援を決定し表彰
(募集期間6月～10月)
- ◎ 容器包装3Rフォーラム

○ 11 月

- 「JFE西日本フェスタinくらしき」に出展
- 「秋の千代田区一斉清掃」に参加
- 「はんだふれあい産業まつり」に出展
- 「むさしの環境フェスタ」に出展



はんだ



千代田区一斉清掃



くらしき

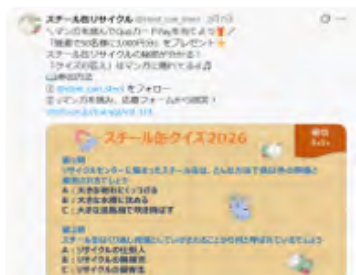


むさしの環境フェスタ



表彰（環境教育推進支援）





X クイズキャンペーン



ふくやま



受入れ授業



製鉄所見学会



表彰（民間団体回収支援）



5月

■ スチール缶の資源化に関するアンケート2026
(5月～7月)

①家庭系の分別回収、②再資源化状況

■ 「JFE西日本フェスタinふくやま」に出席

■ 受入れ授業：仙台市立向陽台中、
仙台市立愛宕中、
仙台市立東仙台中

8月

■ 夏休み製鉄所見学会
(日本製鉄東日本製鉄所
君津地区)

9月

■ 「子どもとためす環境まつり」
に出席

7月

■ 出前授業：川越市中央公民館
◎ 容器包装交流セミナー in 富山

6月

■ 定時総会を開催
■ 「岩国環境フェスタ」に出席
■ 散乱防止・美化キャンペーン実施@高知市
■ 「春の千代田区一斉清掃」に参加

4月

■ エコプラザ用賀展示スペース出展
(4月～6月)



エコプラザ用賀



高知市



出前授業



岩国環境フェスタ



千代田区一斉清掃

3月

◎ 容器包装交流セミナー in 千葉
◎ 「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に出席

◎は3R推進団体連絡会での活動
ホームページはこちら→



製鉄工場（電炉・高炉・鋳物）・ペレット工場の分布

全国計

75

工場

高炉工場……………8

鋳物工場等……………7

電炉工場……………55

ペレット工場……………2

缶用鋼板製造工場……………3

3工場でスチール缶用鋼板が製造されています

■ これらの製鉄工場の多くでスチール缶がリサイクルされています

■ 効率よくリサイクルするために、地域ごとに最寄の工場で再生製品がつくられています

※スチール缶リサイクル協会調べ
(2026年7月現在)

近畿

21 工場

【長岡京】大剛

【岸和田】岸和田製鋼

【枚方】共英製鋼

【和歌山】日鉄スチール

【枚方】クボタ

【和歌山】日本製鉄

【大阪】栗本鐵工所

【加古川】神戸製鋼所

【大阪】中山製鋼所

【高砂】神戸製鋼所

【大阪】中山鋼業

【姫路】日本製鉄

【大阪】合同製鐵

【姫路】ヤマトスチール

【大阪】日本製鉄

【姫路】JFE条鋼

【堺】新関西製鐵

【姫路】合同製鐵

【堺】大阪製鐵

【姫路】山陽特殊製鋼

【堺】栗本鐵工所

中部

13 工場

【燕】三星金属工業

【長岡】北越メタル

【射水】大谷製鉄

【氷見】小松製作所

【飛騨】神岡鋳業

【岐阜】山口鋼業

【飛島村】共英製鋼

【名古屋】中部鋼板

【東海】日本製鉄

【東海】愛知製鋼

【東海】大同特殊鋼

【豊橋】トピー工業

【田原】東京製鐵

中国・四国

9 工場

【倉敷】東京製鐵

【倉敷】JFE条鋼

【倉敷】JFEスチール

【福山】JFEスチール

【竹原】三井金属鋳業

【呉】広島メタル&マシナリー

【周南】日本製鉄

【宇部】宇部スチール

【山陽小野田】共英製鋼

北海道

3 工場

【札幌】JFE条鋼

【苫小牧】清水鋼鐵

【室蘭】日本製鉄

東北

3 工場

【八戸】東京鐵鋼

【石巻】伊藤製鐵所

【仙台】JFEスチール

関東

18 工場

【太田】王子製鉄

【久喜】向山工場

【宇都宮】東京製鐵

【三郷】JFE条鋼

【小山】東京鋼鐵

【川口】城南製鋼所

【小山】東京鋼鐵

【船橋】合同製鐵

【土浦】共英製鋼

【千葉】JFEスチール

【つくば】伊藤製鐵所

【君津】日本製鉄

【神栖】JFE条鋼

【足立区】千代田鋼鉄工業

【鹿嶋】日本製鉄

【川崎】日本冶金工業

【神川町】朝日工業

【平塚】三興製鋼

九州

7 工場

【北九州】日本製鉄

【北九州】トーカイ

【北九州】東京製鐵

【北九州】KARS

【武雄】九州製鋼

【宇土】大阪製鐵

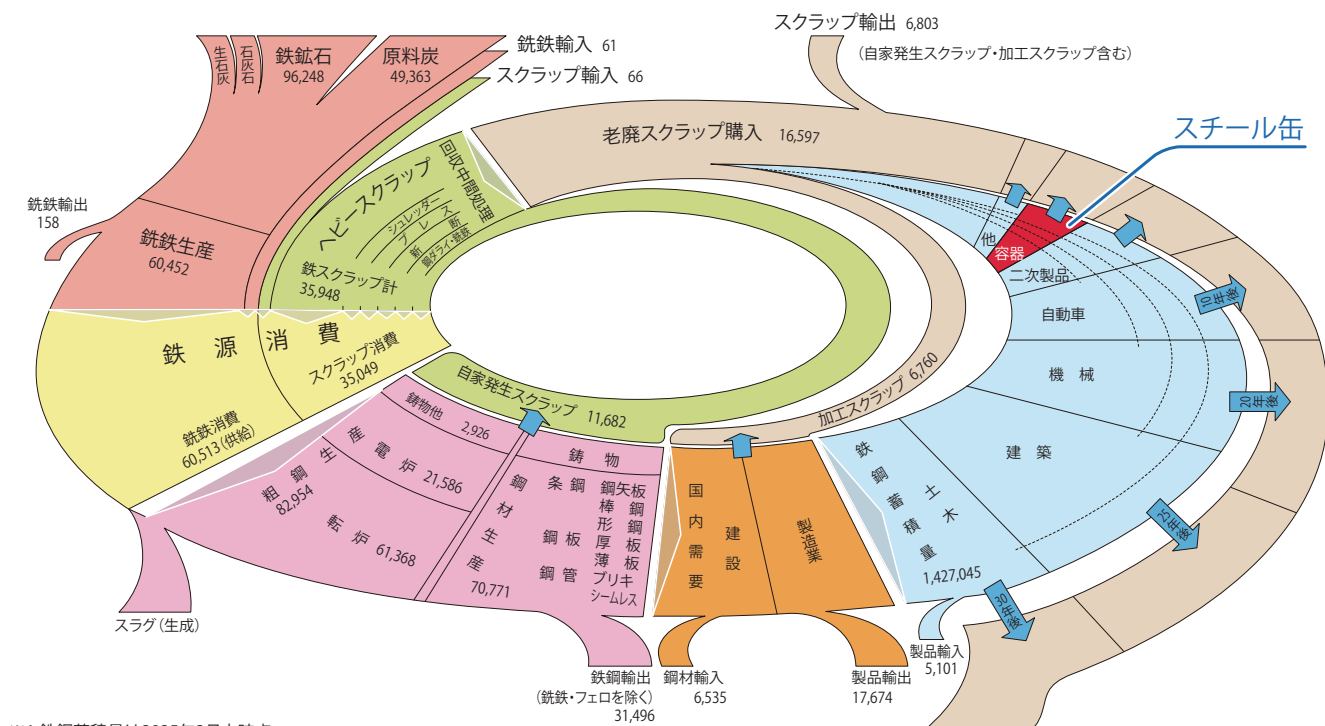
【大分】日本製鉄

沖縄

1 工場

【沖縄】拓南製鐵

日本の鉄鋼循環図(2024年度) (千t/年)



※1 鉄鋼蓄積量は2025年3月末時点

※2 鋼材輸出入、鉄鋼輸出入データは、財務省「貿易統計」、
およびクォーターてつげんVol.107「2024年度末の鉄鋼蓄積量(推計)」図表4

※3 銑鉄需給・鉄スクラップ需給は、鉄源年報第36号(2025)第II-1-②表

※4 鉄鉱石は消費量統計調査廃止（2004年1月）により日本鉄鋼連盟「鉄鋼統計要覧」の鉄鉱石輸入量を記載。
原料炭は日本鉄鋼連盟「鉄鋼統計要覧」の鉄鋼業の原料炭国別輸入合計

出所：(一社)日本鉄源協会

スチール缶は、様々な鉄製品に生まれ変わる、
リサイクルの優等生です。



スチール缶リサイクル協会の概要

設立目的

使用済みスチール缶の散乱防止対策及び資源としての再利用について研究し、社会に貢献する事を目的とする任意団体。資源化対策、美化・散乱対策、PR 活動を実施。

設立

昭和48年(1973年)4月17日

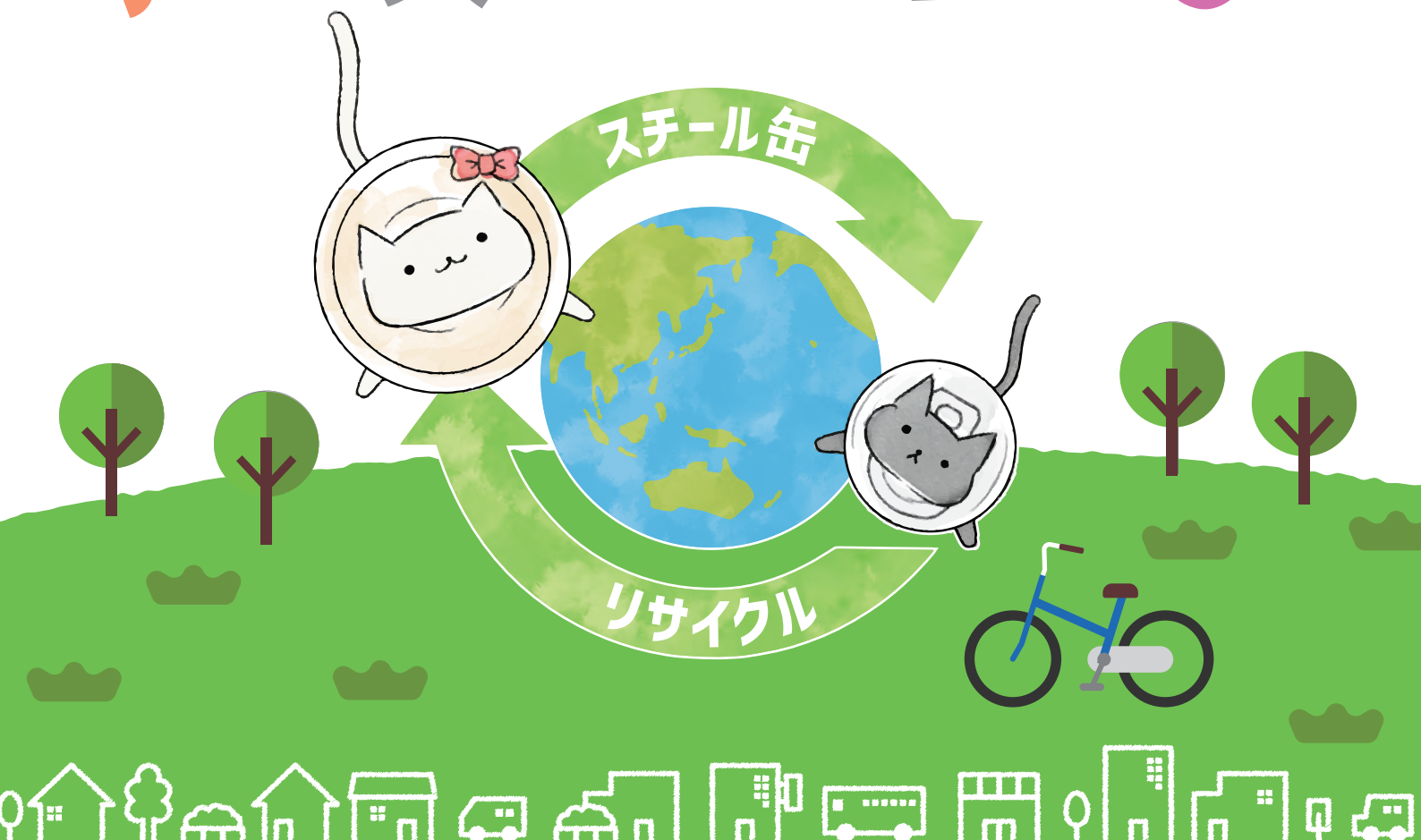
代表者

理事長 …… 廣瀬 孝（日本製鉄(株)代表取締役副社長）
副理事長 …… 倉持 隆志（東洋製罐(株)執行役員品質保証機能担当）
副理事長 …… 荻島 和裕（大和製罐(株)常務取締役）
専務理事 …… 高橋 宏郁

会 員 会 社 (15 社)

鉄鋼メーカー	…	日本製鉄(株)	JFEスチール(株)	東洋鋼鈑(株)
製缶メーカー	…	東洋製罐(株)	大和製罐(株)	北海製罐(株)
商社	……………	三井物産スチール(株)	伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	(株)メタルワン
		JFE商事(株)	日鉄物産(株)	東罐商事(株)
飲料メーカー	…	タйдードリンク(株)	キリンビバレッジ(株)	サントリービバレッジ&フード(株)

使うほど 地球にやさしい スチール缶



スチール缶リサイクル年次レポート 2026

発行: 2026年10月

スチール缶リサイクル協会

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町三丁目7番1号
興和一橋ビル1階
TEL.03-5577-2241
FAX.03-5577-2242
URL: <https://steelcan.jp/>



編集: (株) ダイナックス都市環境研究所 <https://dynax-eco.com/>
デザイン・DTP: 安養寺ヒサノリ

スチール缶は、鉄製品なら
何にでも何度でもリサイクルできる
環境にやさしい容器です。

